

トヨタ記念病院消化器科 後期臨床研修プログラム

トヨタ記念病院消化器科の特徴は、豊富な検査件数と整備された救急医療体制のもとで、短期間で急性期医療を体得し専門的技術が研修できることである。消化管領域は、上部・下部消化管造影検査・内視鏡検査、超音波内視鏡や各種の内視鏡的治療を積極的に行っている。食道では、内視鏡的静脈瘤結紮術や内視鏡的硬化療法を行っている。食道・胃・大腸では、内視鏡的粘膜切開剥離術（ESD）を行っている。また、炎症性腸疾患の治療、教育やピロリ菌の除菌治療、胃癌の化学療法にも積極的に取り組んでいる。胆膵領域では、胆道疾患に対して積極的に内視鏡的乳頭切開術（EST）、胆管ステント術を施行しており、肝領域では、C型慢性肝炎のインターフェロン治療から、自己免疫性肝疾患の診断・治療、肝癌の早期診断、早期治療（ラジオ波凝固療法、肝動脈塞栓術、エタノール注入療法、肝動脈塞栓術（TACE）など）を行っている。

1. プログラムの概要

消化器科後期研修プログラムは、卒後の初期臨床研修課程2年を終了した者を対象とし、消化器科領域でより高度な知識・技能を習得し、質の高い医療を実践できる専門医を育成することを目的としている。

消化器科後期研修課程では、消化管疾患、肝疾患、胆・膵疾患と広い分野での診断治療能力を修得し、後述の消化器科後期研修課程の到達目標を目指す。また、消化器外科との連携を含めたチーム医療を学び実践する。

研修初年度では、内科一般および消化器科の **common disease** の診察法と、基本的検査手技、薬物治療を学び、指導医の現地指導のもとで習得する。

研修2年度では、主に内視鏡検査の技術をみがき、急性腹症や消化管出血への対応能力を習得する。長期の治療戦略が重要な肝臓病等への理解を深めるとともに、緊急処置の頻度の高い胆膵疾患を理解し、専門技能を身につける。

研修3年度では、内視鏡下手術、エコー下手術、経カテーテル手術、癌化学療法を研修し、実践的な臨床能力を習得する。消化管疾患、肝疾患、胆・膵疾患の各分野の中で自身の専門とする分野を見定め、指導する能力を身につける。

内科救急当直の業務にも加わるが、当直は1ヶ月に4回程度。原則として当直翌日の午後はフリーとしている。その他の業務では、消化器科救急直がない場合の当番制の待機がある。日常の勤務は消化器科外来週1回、内科新患外来月1回、午前・午後救急当番がある。救急業務についてはバックアップ体制をとっており、救急対応のためのステップアップスキルを体験・習得する。

2. 取得資格と研修期間

当院は、日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会の指導施設、日本肝臓学会の教育関連施設となっており、それぞれ認定医、専門医の資格を取得することができる。

研修期間は2年または3年の選択が可能である。研修終了後は専門医資格取得をめざし、名古屋大学消化器内科学講座医局への入局斡旋、あるいは一定期間の継続勤務が可能である。

3. 目標

- ・ 医師としての基本的診療に必要な知識、判断力、対人対応能力を習得する。
- ・ 常に新しい医学の知識、技術を学び、生涯学習の姿勢を身につける。
- ・ 学んだ基本を応用し、さらに上のレベルへのステップアップを目指す。
- ・ 安心・安全な医療の実践のため、リスク管理の能力を身につける。
- ・ EBM(evidence based medicine)を実践する習慣を身につける。
- ・ チーム医療の重要性を学び、リーダーになる能力を身につける。
- ・ 地域医療の重要性を理解し、地域医療機関との連携協力の方法を身につける。
- ・ 患者さんの求める目標に対し、医の倫理に基づき努力する習慣を身につける。

■行動目標

- ①定められた消化管、肝臓、胆膵の各分野の症例数を経験する。
- ②別に定める必要とされる診断・治療技術を習得する。
- ③別に定める必要とされる消化器救急手技、対応法を習得する。
- ④内科一般および消化器専門の入院患者の全身管理を習得する。
- ⑤消化器科専門医としての指導の能力を身につける。
- ⑥患者および患者家族との対応能力を身につける。
- ⑦チーム医療の核となれるリーダーシップを身につける。
- ⑧ジュニアレジデントの指導を通じて、自身の研修成果を確実にする。
- ⑨消化器病専門医試験に必要なとされる要件を満たす。
- ⑩適切な症例呈示の方法を学び、学会発表、論文発表を行う。

■到達目標

①基本的診察とインフォームドコンセント

- ・適切な病歴聴取と身体診察を行い、必要な検査計画を立案することができる。
- ・検査の目的・方法・適応・合併症について説明することができる。
- ・検査結果の分析・診断ができ、治療計画を立案することができる。
- ・治療方針について、患者さんにわかりやすく説明することができる。
- ・ベッドサイドでの検査・治療手技を安全に実施することができる。

②検査治療手技

研修初年次：上部・下部消化管内視鏡検査、上部・下部消化管 X 線検査、腹部超音波検査、特殊内視鏡検査、組織生検、ポリペクトミー
研修 2 年次：ERCP, EMR, EVL, 内視鏡止血術, PTGBD, 肝生検, 血管造影
研修 3 年次：EIS, ESD, EST, 胆管ステント, PTBD, TAE/RFA/PEIT
以上の手技については、一人で実施できるレベルを目指して研修指導を行う。

③薬物治療

研修初年次：一般治療薬の作用、副作用を理解し説明できる。
研修 2 年次：麻薬を含む疼痛緩和治療に習熟し、各薬剤の作用副作用を説明し麻薬処方箋、指示書の作成ができる。
研修 3 年次：癌化学療法を学び、各抗がん剤の作用機序と副作用対策を学ぶ。化学療法の治療計画を策定し、的確な説明と同意が得られる。がん患者の緩和ケア治療を学び、適切な指導・投薬を行う。放射線治療、および病理診断についても必要な研修を行う。

4. 研修の目標症例数

主な診療実績	研修の目標症例数
上部消化管内視鏡検査数	600 例／年
下部消化管内視鏡検査数	100 例／年
内視鏡的止血術	20 例／年
内視鏡的粘膜剥離切開術 ESD	5 例／年
内視鏡的大腸粘膜切除術 EMR	50 例／年
内視鏡的胃瘻造設術	10 例／年
内視鏡的乳頭切開術 EST	15 例／年
内視鏡的胆道採石・ドレナージ	5 例／年
経皮的胆管・胆嚢ドレナージ	10 例／年
肝細胞癌動脈塞栓術 TAE	5 例／年
ピロリ菌の除菌治療	20 例／年
胃癌化学療法	3 例／年

5. 週間スケジュール

- ・毎週月火水金早朝に研修医主体の全科合同セミナーが行われる
- ・毎日始業時に前日入院患者の簡潔な症例提示、連絡事項
- ・毎日終業時に当日入院患者の簡潔な症例紹介、連絡事項
- ・週末は待機担当医への要注意病棟患者の呈示、連絡事項

例) 週間予定表

	月	火	水	木	金
早朝	合同セミナー 症例呈示連絡	合同セミナー 症例呈示連絡	合同セミナー 症例呈示連絡	症例呈示連絡	合同セミナー 症例呈示連絡
午前	外来, エコー	内視鏡検査	外来, エコー	透視検査	内視鏡検査
午後	病棟回診他	特殊検査	病棟回診他	特殊検査	救急当番他
夕刻	症例検討会	内科会他	術例検討会		症例呈示

※一般当直業務および入院患者、救急患者についての当番制の待機業務を行う。

6. 評価

経験した症例数と要約症例数、学会活動（演題発表および論文作成）チーム医療における主体的行動力、貢献度、若手やパラメディカルに対する教育指導力の発揮などに関して、指導医と自分自身により形成的に評価を実施する。

評価に基づいて自身の弱点を確認した上で、プログラムの修正や補習により、更なる研修の向上をめざす。

7. 研修終了後の進路

①名古屋大学消化器内科学への入局推薦

名古屋大学消化器内科学は消化管グループ、肝臓グループ、胆膵グループの各分野に分かれており、専門性を追求して他の関連病院にて専門研修する。

②名古屋大学消化器内科学入局者への大学院入学推薦

名古屋大学大学院課程に進み、海外留学や専門研究を目指す。

③当院の消化器科に一定期間延長勤務し、消化器病学会専門医を目指す。